

2011

別府史談

第二十四号



別府史談会

(表紙写真) ——— 永石温泉

別府市楠町、永石通りと旧国道(豊前街道)の交差点に永石温泉がある。
本温泉は元禄年間より別府16温泉の一つに数えられ医治効用の顕著なことで広く知られている。

言い伝えによれば、弘法大師が西国巡錫(じゅんしゃく)の際に、日照り続きのこの地を訪れ、一杯の水を所望したところ、老婆が水を恵んでくれた。

その老婆に感謝し、空に石を投げた石の落下地点より温泉が湧き出したことから「投石の湯」「握石温泉」(にぎりいしおんせん)「一夜温泉」とも呼ばれ、後に「永石の湯」となったと云う。

現在の建物は、隣接の旧別府警察署が昭和4年7月1日、別府市浜町に警視庁に似た鉄筋コンクリート3階建て(施工 藤本組 工事費約11万円)を新築落成した跡地を地元篤志家・藤沢徳一、河村観三、平居伊三郎、荒金作八、平松源七の各氏による寄付金等によって用地を拡張、建築は棟梁工藤秀利(工事費13,870円)によって昭和16年7月12日改築落成したものである。

建物は、入母屋造り、鉄板葺、木造平屋建て、建物の棟は、矩(かな)折れに曲り、日田、玖珠地方によく見かける鍵屋(かぎや)と呼ばれる独特の民家形式をしている。

もともと、泉源及び建築物は、田澤周平氏の所有であったが、昭和7年1月20日別府市に寄贈、以来、市有温泉として運営を行ってきたが、平成18年に指定管理者制度の導入により、温泉の運営は民間委託された。

泉質は炭酸性単純泉である。

[文責：外山 健一]